

ゴロねこニャン吉奮闘  
記 2

紫 李鳥

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

野良猫ニヤン吉の奮闘記。

# 目次

|             |   |
|-------------|---|
| ゴロねこニヤン吉奮闘記 | 2 |
| —           | — |
|             | 1 |



## ゴロねこニヤン吉奮闘記 2

シーシー

昼食を終えたニヤン吉は、木陰でゴロゴロしながら、爪楊枝で歯の掃除中。今、ご馳走になった西京焼きは、林業を営む吉田さんちの。

少し開いてた台所の窓から忍び込んで失敬したもの。

悪いと思いつながら、腹ペコになったら、理性も常識もへったくれもねえ。あくあく、満腹、満腹。さて、めしも食ったし、昼寝でもするか……。

スヤスヤ……

グーグー……

ガーガー……

グアーツ！ガアーツ！

なっ！なんだ？……ああ、ビックリした。

自分のいびきで飛び起きたニヤン吉は、よだれを拭きました。

「ちよつと、知ってる？益田さん、空き巣に入られたんだって」

ん？頭に手ぬぐいを被って、背中に竹かごを背負ったお婆さんが、麦わら帽子にもんぺ姿のお婆さんと立ち話中。

「聞いたわよ。タンス預金してたんだって」

「へそくりしてたのよ」

「うちもへそくりできる身分になりたいわ」

「うちだって、食べていくのが精一杯で、へそくりなんて、夢のまた夢よ。ハハハ……」  
「それにしても、早く捕まってほしいわね。ま、うちは盗まれるものないから心配ないけど」

「うちもお金のほうは心配ないけど、ハートを盗まれる可能性があるから気をつけないと。おほほ……」

「あらあ、お若い。女はいくつになっても気持ちだけは若くいたいわね」

「あら、まだまだお若いわよ」

「あら、そうかしら？オッホッホ」

(つたく、うるさいな。昼寝もできねえ。場所変えるか)

ニヤン吉は、小さな神社の裏まで来ると、涼しい床下に入りました。昼寝の続きをしようとした、そのときです。

「——5、6、7、8、9、10万か。クツ、結構あつたな、タンスに。さて、街に行つてうまいもんでも食うか」

男の独り言を耳にしたニヤン吉は、床下から顔を覗きました。

(こいつが盗んだのか)

お金を手にした中年男が背を向けようとした寸前、ニヤン吉はピューマのようにしなやかに走ると、男の手を目掛け、ジャンプしました。

ガブツ

一瞬のできごと、何が起きたのか分からず、男はキョトンとしていました。

川を越え、畑を越え、猛スピードで交番まで行くと、*「ただいま、パトロール中」*の札が下がった戸を開けて、泥棒から取り戻したお金を届けました。

（まったく、昼寝もろくすっぽできないかった。さて、晩飯は誰んちにするか。吉田さんちはさつき西京焼きいただいたばっかだから、次は農業の藤田さんちにするか。どれ、それまで一寝入りつと）

「ちよつと！ちよつと！私、見たのよ、空き巣の犯人」

（ん？さつきのおばさんたちじゃん）

「えっ！誰だったの？」

「白黒のずんぐりむつくりの雑種」

（白黒のずんぐりむつくりの雑種？俺のことじゃん。……まさか、西京焼き盗むところ見られたのかな）

「札幌くわえて、逃げた」

（お、俺じゃないって、金盗んだのは。トホホ）